

自治体名	三重県教育委員会 担当課：三重県教育委員会保健体育課 電話番号：059-224-2973
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	150校	② 生徒数	44,613人	③ 部活動数	1,246部活
--------	------	-------	---------	--------	---------

1.2 地域における現状・課題

三重県の地域移行については、「運営団体・実施主体の確保」「指導者の確保」「費用負担」の課題に加え、「平日と休日の活動の連携と引継ぎ」「地域移行に関する生徒や保護者の理解」「けがなど緊急時に円滑に対応できる体制」など運営上の課題もあります。また、市町によって状況も異なることから、県では市町教育委員会と定期的に協議する場を設け、市町の取組状況、課題を丁寧に把握し取り組んでいます。

1.3 実践研究における取組目標

①指導者の確保

顧問として部活動の指導や大会への引率を行うことができる部活動指導員の配置を増員します。

日本スポーツ協会公認の指導者資格取得者約460人分の人材リストを市町に提供したが、各競技団体が独自に発行する指導者資格取得者の人材リストへの登録を依頼し、人材リストを拡充する。

文化部活動については、人材リストの作成に向け、今後、文化芸術団体等と連携します。

②運営団体・実施主体となり得る団体への協力要請

総合型地域スポーツクラブ、競技団体、スポーツ少年団、市町スポーツ協会などスポーツ関係団体を対象とした地域移行説明会を実施し、運営団体・実施主体としての協力を依頼します。

③モデル事業の実施

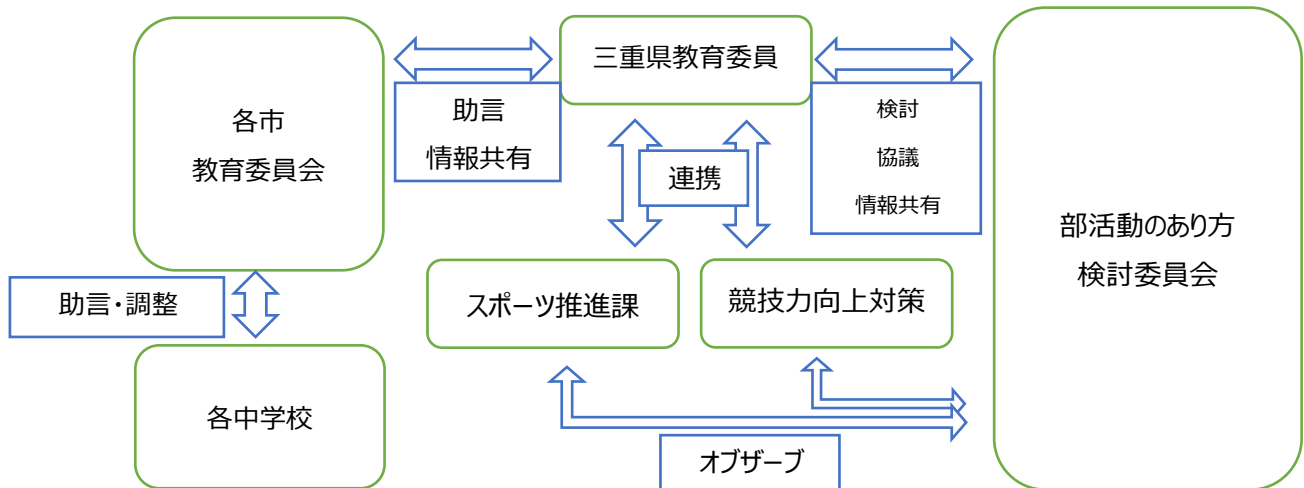
令和3年度から、県内3市町4中学校において、休日の運動部活動の地域移行について実践研究を実施し、以下の運営上の具体的な課題への対応を検証します。

「平日と休日の活動の連携と引継ぎの強化について。」

「地域移行に関する生徒や保護者への周知について。」

「けがなどの緊急時に円滑な対応ができる体制の構築について。」など

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

市町等との協議

○部活動あり方検討委員会

令和2年10月に有識者や関係団体の代表者による会議を設置し、地域移行も含めた持続可能な部活動について協議しており、引き続き開催する。

○市町教育長会議

年に、複数回実施している市町教育長会議において、県教育委員会の取組の説明や各市町の進捗状況、課題を把握し共有するとともに、意見交換を実施する。

○市町教育委員会との部活動のあり方意見交換会

定期的に市町教育委員会と協議・情報交換を行う場を設け、モデル校での実践研究の成果や課題、各市町の今後の取組予定、進め方、課題などを継続して把握し共有しており、引き続き開催する。

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

三重県が主体で県立中学校での実践はありません。

各市町教育委員会で、実践研究を実施しましたが、事業主体は三重県教育委員会として実施しました。

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

各市町の成果報告書参照

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

各市町の成果報告書参照

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

地域移行の大きな目標である「生徒の専門的な運動機会の確保」や「教員の負担軽減」について、実施報告やアンケートから、非常に大きな効果が見られました。しかし、県内29市町において課題や問題点に違いがあることから、県内一律で地域移行を進めることは難しいと感じます。

実践事業を実施した3市町においては、関係団体と連携がうまく取れており、教育委員会が主体となり事業を進めてきました。関係団体それぞれで所管する団体が違うことから、考え方や進め方の共有が必須です。そのことから、各市町で協議会を設置し、各市町の課題に応じた方策を立てる必要があると考えます。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

市町教育長会議や市町担当者との協議の場において、引き続き、円滑に部活動の地域連携・地域移行が進むよう、市町の取組や課題を丁寧に聞き取り、情報共有を行います。

【受け皿団体の確保方策】

地域クラブ活動の受け皿、指導者を確保するため、スポーツ推進局と連携し、運営団体・実施主体となり得る団体に対して協力を依頼します。

【指導者の確保方策】

総合型地域スポーツクラブ指導者、スポーツ少年団指導者、スポーツ推進委員、兼職兼業の枠組みでの指導を望む教職員、その他地域クラブ活動の指導を希望する指導者を対象に幅広く希望を募り、年5回の研修会を実施し、中学生を指導するために必要な資質を備えた休日の指導者を育成します。

【地域特有の課題への対応策】

各市町の協議会で行われる議論の詳細を把握し、さまざまな状況にある市町ごとに、どのように地域移行を進めていくのがよいのか、個々の課題に対してどのような対応がとれるのかなど、市町と認識を共有しながらともに検討します。

令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	伊賀市教育委員会事務局 担当課：学校教育課 電話：0595-22-9649
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	10校	② 生徒数	2,113名	③ 部活動数	64部活
--------	-----	-------	--------	--------	------

1.2 地域における現状・課題

伊賀市においては、県内山村部の多くの市町と同様、受け皿の確保は容易ではなく、中学生を対象に受入可能な既存のスポーツ団体や、中学生に指導が可能な地域の指導者は潤沢ではない。伊賀市スポーツ振興課が令和4年夏に実施したアンケートでは、令和5年度から7年度までの3年間で部活動の地域移行を受け入れる体制づくりが「可能」と回答したスポーツ団体は18%に留まっている。また、学校部活動では不要であった参加費や保険料等、新たな経済的負担が課される保護者の理解を得ることも大きな課題と捉えており、地域移行に向けて取組を進めていくことの難しさに直面している。

1.3 実践研究における取組目標

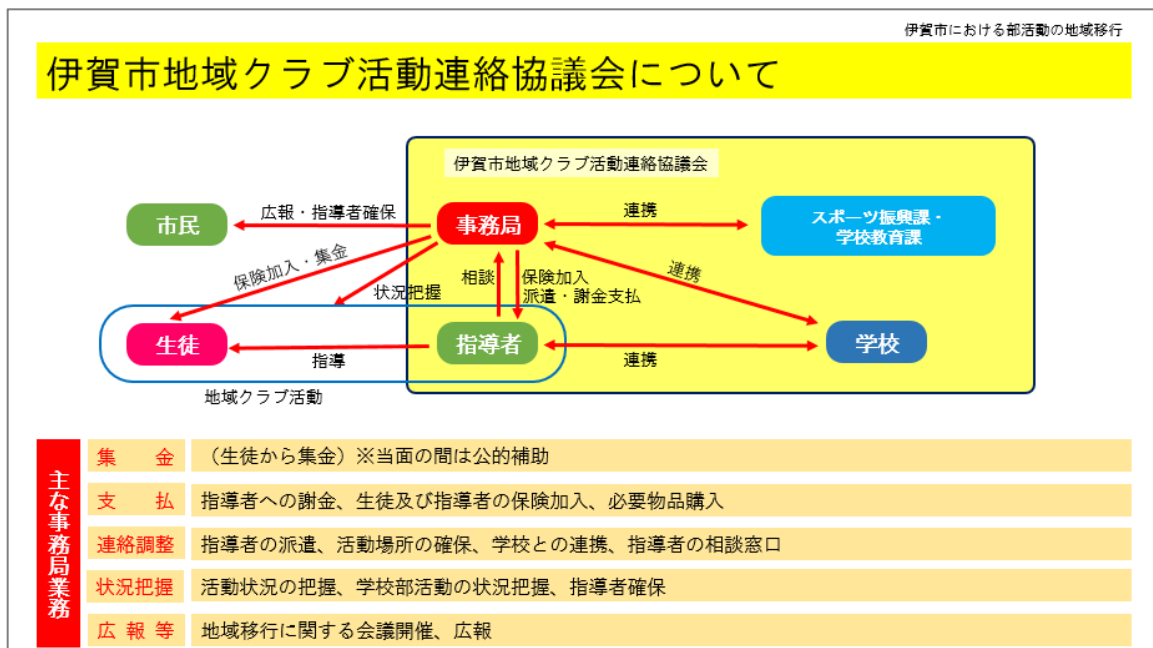
1.2のような課題があり、保護者や生徒から理解を得ること等に対し、丁寧かつ慎重に進めていく必要があることから、令和5年度には、現有の学校部活動の現状及び指導者の確保等について、競技別に調査等の取組をすすめていくこととした。保護者へは、教育委員会が作成したリーフレットを配付し周知を行うとともに、学校からも説明の機会をつくり、理解が得られるよう図る。また、生徒に対しても、部活動について説明する機会をもつことを検討している。

本事業のモデル校に対しては、すでに取組を進めていることから比較的的理解が得やすいと考えられるため、モデル校の取組状況等について、市内へ発信し地域移行の周知及び理解につなげられるのではないかと考えている。令和6年度から、可能な限り複数の競技（学校部活動）における地域移行に向けて取り組んでいく。

2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

令和5年度のできるだけ早い時期に、地域クラブ活動の円滑な運営や活動の活発化を図るための調査・研究、市民への広報等を行う「伊賀市地域クラブ活動連絡協議会」総会を開催する。さらに、連絡協議会には将来的に事務局を置き、参加生徒からの参加費の徴収や保険加入、地域クラブ活動の調整に関すること等の業務を担うことを規定する。

【伊賀市地域クラブ活動連絡協議会】



3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	2校
② 実践研究に取り組んだ部活動数	2部活
③ 種目	陸上競技、バレーボール

《主な取組例（1）》…崇広中学校

① 運営主体	ゆめが丘 RC		
② 種目	陸上競技	④ 参加者数	26人
④ 活動日	主に土曜日	⑤ 活動場所	崇広中学校
⑦ 指導者人数	2人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	ゆめが丘 RC 所属の指導者1名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（指導者への謝金の一部を徴収）		

《主な取組例（2）》…霊峰中学校

① 運営主体	いがまちバレーボールクラブ		
② 種目	バレーボール	④ 参加者数	16人
④ 活動日	主に土曜日	⑤ 活動場所	霊峰中学校体育館
⑦ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	いがまちバレーボールクラブ所属の指導者1名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（指導者への謝金の一部を徴収）		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

【生徒】

- ・今までできなかったことができるようになったのでうれしかった。
- ・走るフォームなど、指導されて見直すことができた。
- ・体幹がしっかりしてきたし、筋肉や基礎的な技術が身についた。
- ・少し厳しいと思うこともあるけど、本格的な指導を受けられたおかげでタイムが上がった。
- ・自分の技術もチームの技術もより高まったのかなと思う。サーブを教えてもらい、上達した。県大会にも出られてとてもうれしい。
- ・トスの高さや位置をていねいに教えてもらい、今はジャンプトスやクイックなどたくさんレパトリーの中で使い分けるのでとても楽しく練習できている。

【保護者】

- ・先生の負担が少しでも軽減され、精神的肉体的にしっかり休めるといいと思う。
- ・学校と連携をとってもらえるのが理想。
- ・送迎など家族の負担が増える。
- ・たまたま指導者がいてくれたからよいが、どの地域のどの競技でも同様に指導者がいるのか疑問。
- ・お金がある家は参加できるが、そうでない家は参加できないようになるのではないかと不安になる。
- ・技術指導はもちろん、あいさつや後片付けなど、いろいろと教えてもらっていると、子どもの様子を見て思う。
- ・指導者と保護者の意見交換の場が持てるとよいと思う。

【指導者】

- ・教員の働き方改革が行われている中、この事業はとても意義がある取組だと思う。指導者として協力していきたい。

【教師】

- ・専門の指導者がいると、生徒も部活動に満足すると思う。
- ・負担軽減になるのでありがたい。
- ・他の部活動にも波及していけばよいが。
- ・実現可能かどうか疑問な点はあるが、実現すればありがたい。
- ・やがて文化部のことも課題になってくるので、不安である。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

各団体から派遣される指導者は、幸い、平日の指導にもあたっていただいているため、休日と平日の指導について、生徒や保護者の混乱はなく、顧問との連絡調整も曜日に関係なく行えている。

また、事故発生時においては、各指導者が顧問または学校長と連絡が取れるようにしているため、迅速な対応が可能となっている。

各活動とも学校施設を使用しており、保護者の送迎については、従来の学校部活動の際と変わらない。そのため、特に混乱はない。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

- ・ 専門的な指導が受けられている。
- ・ 顧問の負担が軽減されている。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

伊賀市地域クラブ活動連絡協議会総会を開催し、多くのスポーツ団体の方に対し、学校部活動の地域移行について周知を図り、理解を得る。

【受け皿団体の確保方策】

伊賀市スポーツ推進課と連携し、市内スポーツ団体に対して学校部活動の地域移行について周知を図り、理解を得る。

【指導者の確保方策】

地域移行後も指導者として活動に携わりたい教員数を把握し（令和4年度は7月に調査実施）、希望する教員が不足する競技や地域については、スポーツ団体との連携・協力が不可欠である。

【困窮世帯への支援方策】

市単での予算措置は困難なため、県や国の事業を活用していく必要がある。

【地域移行の自走化に向けた方策】

国の方針に則り、まずは現有の学校部活動の休日の地域移行が実現できるよう取組を進めているところである。市単の予算措置が困難な中、取組を進めていく際に生じる課題に対応していくためには、国や県の事業を活用していく必要がある。

【地域特有の課題への対応策】

今後とも引き続き、生徒や保護者、各スポーツ団体への周知を図り、理解を得ることが重要である。

令和4年度地域運動部活動推進事業

休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	大台町教育委員会 担当課：教育課 電話番号：0598-82-3791
------	---------------------------------------

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	2校	② 生徒数	170人	③ 部活動数	9部活
--------	----	-------	------	--------	-----

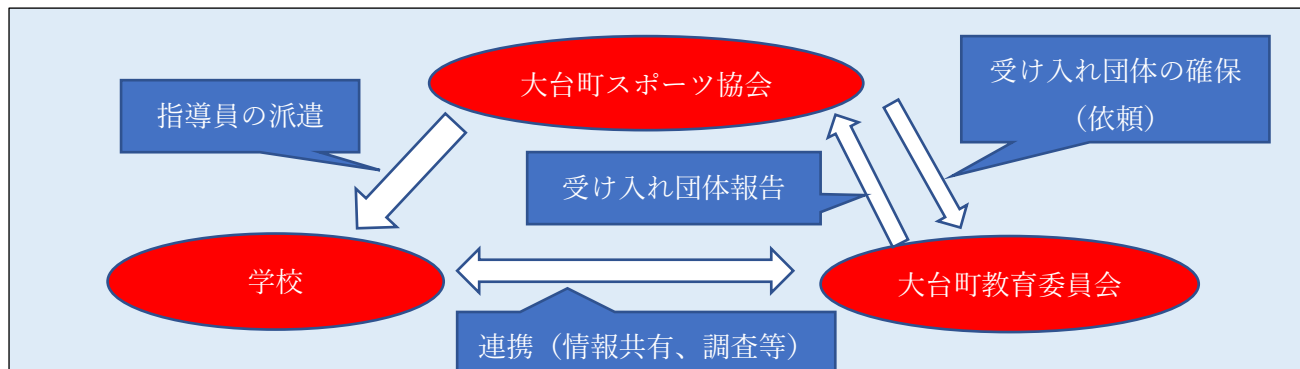
1.2 地域における現状・課題

部活動の外部指導員を活用した地域運動部活動の事業を実施しているソフトテニス部以外で、外部指導員の確保ができていない。

1.3 実践研究における取組目標

大台町内の部活動の段階的な地域移行を進めていくため、現状外部指導員の確保ができていないので町内のスポーツ協会と連携を取り、子どもたちのスポーツのできる環境を整備し確保していく。

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

町スポーツ協会との連携をとり、昨年度も事業を実施した女子ソフトテニス部の外部指導員に引き続き依頼し事業を継続。指導体制の整備につなげ、競技力の向上につなげることができた。

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	町内全2中学校のうち、1校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	1部活
④ 種目	女子ソフトテニス

《主な取組例（1）》…大台町立大台中学校

① 運営主体	大台町ソフトテニス協会		
② 種目	ソフトテニス	③ 参加者数	21人
④ 活動日	土曜日、日曜日	⑤ 活動場所	大台中学校テニスコート
⑥ 指導者人数	1人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間
⑨ 指導者属性	大台町ソフトテニス協会に所属の指導者1名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり (1人あたり：1,000円/年間)		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

今年度のアンケートは県教委の依頼のみでオンライン回答であったため結果の集計が行えていないが、前年度のアンケート結果は、事業実施校の生徒には「技能が高まった」ことや「意欲が高まった」といった意見が多く、保護者も地域移行について「満足している」といった意見が多く地域移行について理解を示されていたなかで「子供の送迎」の面で心配されている保護者の意見もあったので、送迎の面も考慮していかなければいけない課題だと感じた。部活動顧問、指導者の意見は、競技力の向上や生徒の意欲が高まっていると意見が上がっており、教員の負担軽減につながっているという意見もあり事業の目的には当てはまっていると考える。兼職兼業については、希望しない教員が多くいる中には兼職兼業を希望する先生もいるため、部活動に関わりたい気持ちも尊重し活動をどのように継続していくかも課題であるということが分かった。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

現在事業を実施しているソフトテニス部以外の指導員が見つかっていないため、町内のスポーツ協会と連携し、所属しているスポーツ団体に部活動の休日の活動をするための指導員を町スポーツ協会理事会にて募り、受け皿の確保に努めた。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

取組目標の達成はできていると考える。しかし、事業を実施していない部活動に関しては、現状教員の代わりとなる指導員の確保がまだできていないこともあり、休日の部活動を含め、子どもたちのスポーツのできる環境整備や確保といった目標は完全にできているとは言えないのも現状である。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

指導者、学校、町スポーツ協会との連携を密にとり、部活動の安全かつ計画的な実施や持続可能な体制整備づくりが課題となっている。

町スポーツ協会との連携を進めていき、関係団体への周知等を進めていくことが今後の対応と考えている。

【受け皿団体の確保方策】

事業を実施していない部活動の受け皿の確保が課題となっている。

町内のスポーツ協会と連携し、受け皿の確保を対応として考えている。

【指導者の確保方策】

受け皿の確保と同じで事業を実施していない部活動の指導員の確保が課題となっている。

町内のスポーツ協会と連携し、指導員の確保を対応として考えている。

【地域特有の課題への対応策】

生徒の人数が減少してきている中で部活動の削減も考えられていることから、それぞれの生徒が意欲を持って取り組みたい部活動がなくなっていくことが課題となっている。

その課題に対して町内では社会体育の団体が受け皿となっていたため、にスポーツ協会との連携を考えている。

自治体名	菰野町教育委員会 担当課：教育課 電話番号：059-391-1155
------	--

1. 事業の概要について

1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	1校	② 生徒数	199人	③ 部活動数	3部活
--------	----	-------	------	--------	-----

1.2 地域における現状・課題

- ① 県部活動ガイドラインに則った部活動運営を行っていても、部活動が時間外労働時間を増加させる要因になっており、月45時間、年360時間以内とする時間外労働時間内に収まらない。
- ② 総合型地域スポーツクラブがあり、多くの種目で地域移行が可能である。同じ町内の中学校も地域移行が可能である。費用負担の整理や保護者への周知、教員への周知が必要。

1.3 実践研究における取組目標

取組目標

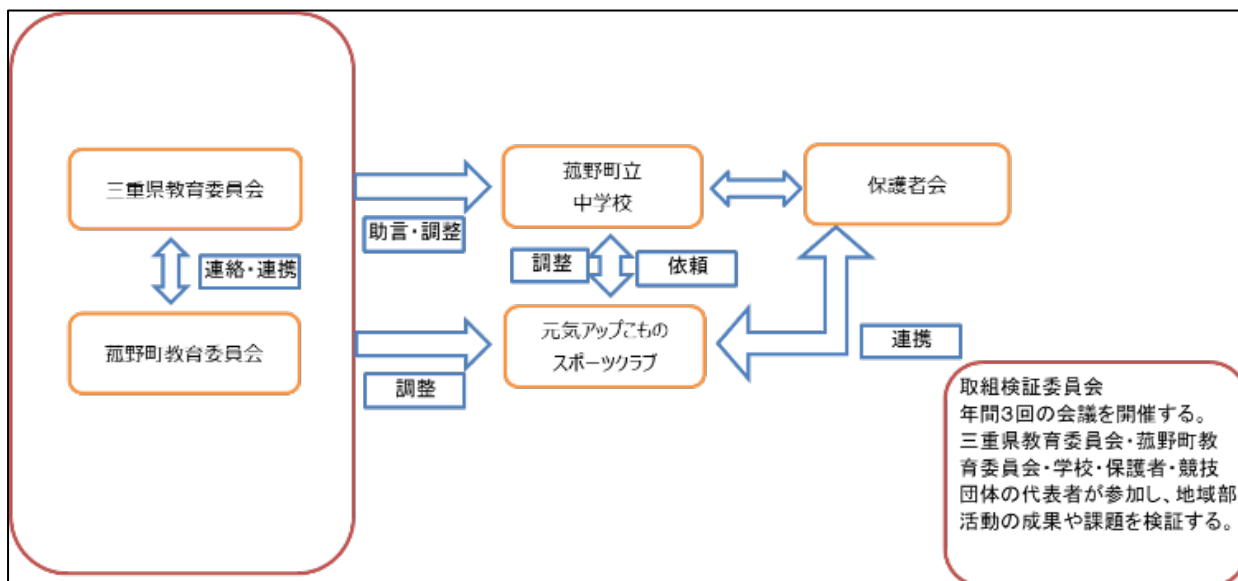
休日における部活動を地域部活動に移行することにより、生徒のニーズに応え、教員の働き方改革の実現を図る。

- ・移行する部活動：陸上競技部（男子82人・女子40人）男子バレーボール部（男子31人）ハンドボール部（男子30人・女子16人）（R4 4月末現在）
- ・移行する期間：休日の部活動（45週×3時間）を地域活動へ移行。年度当初から開始予定。
- ・費用負担：令和3年度は、保険料・謝金を国費で負担、大会参加費は個人負担。令和4年度は、保険料・謝金の一部を個人負担した。

目標の検証方法

- ・モデル校への視察と教員、生徒、保護者、地域のスポーツ人材、競技団体へのアンケートによる分析
 - ・該当部活動顧問の在校等時間の勤務状況についての把握
- 内容：生徒の運動ニーズへの有効性、保護者のニーズへの有効性、教員の負担軽減への有効性及び令和5年度からの地域スポーツ環境の整備

1.4 実践研究の運営体制



2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

協議会や検討会議の開催状況

【2022 年度】

- 4 / 1 3 菰野中 部活地域移行事業、外部指導員派遣事業協議（校長・教頭・町教委）
- 4 / 1 4 菰野中 部活地域移行事業、外部指導員派遣事業協議（校長・教頭・県教委・町教委）
- 4 / 2 2 元気アップ理事長、事務局長と教委との協議
- 4 / 2 7 菰野中 部活地域移行事業、元気アップとの協議（校長・教頭・元気アップ・町教委）
- 5 / 9 元気アップ理事会協議
- 5 / 1 2 第3回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 5 / 1 9 長浜市と意見交換会
- 6 / 2 3 第4回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 7 / 1 4 両中学校管理職との協議
- 元気アップ理事会協議
- 7 / 2 6 受入団体調整会議（元気アップ・スポ文・町教委）
- 7 / 2 7 部活動受入協議（前元気アップ理事長）
- 8 / 5 第5回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 8 / 2 5 現部活動の勝利至上主義・体罰等について協議（菰野中・町教委）
総合型地域スポーツクラブ北ブロックミーティング（四日市総合体育館）
- 8 / 2 7 スポーツ推進委員北勢地域研修会
- 8 / 3 1 元気アップと町教委と合同研修会の準備
合同研修会（三重県教委、元気アップ指導者、芸術文化協会、地域スポーツ指導者、町教委）
- 9 / 6 受入団体調整会議（元気アップ・町教委・スイミングスクール）
- 9 / 7 議会議長へ地域移行の進捗状況報告
- 9 / 1 1 はしまなごみスポーツクラブへ視察依頼
- 9 / 1 3 菰野中部活セミナー（地域移行プレ事業）の打ち合わせ（元気アップ・町教委）
- 9 / 2 1 第6回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 9 / 2 6 菰野中管理職へ進捗状況と今後の見通し等について協議（管理職・元気アップ・町教委）
八風中管理職へ進捗状況と今後の見通し等について協議（管理職・元気アップ・町教委）
- 9 / 3 0 はしまなごみスポーツクラブへ視察依頼
- 10 / 5 元気アップと町教委との協議（視察・セミナー）
- 10 / 6 元気アップ理事会協議
- 10 / 1 2 元気アップと町教委との協議（指導者説明会）
- 10 / 2 2 第1回部活指導講習会（菰野中男子バレー部＋元気アップ指導者）
- 10 / 2 4 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（テニス・卓球・野球・剣道）
- 10 / 2 5 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（軟テニス・吹奏楽・ハンド・陸上）
- 10 / 2 6 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（柔道・ソフトボール）
- 10 / 2 7 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（サッカー・バレー）
- 10 / 2 8 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（バスケット）
- 10 / 3 0 第1回部活指導講習会（菰野中ハンド部＋元気アップ指導者）
- 10 / 3 0 長浜市と意見交換会2
- 10 / 3 1 第11回教育委員会にて進捗状況の報告、視察事前研修
- 11 / 4 楠スポーツクラブと意見交換会
- 11 / 9 第7回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 11 / 1 0 元気アップ理事会協議
- 11 / 1 1 岐阜県はしまなごみスポーツクラブ視察（菰野町教育委員会）
- 11 / 1 4 元気アップ運営委員会協議

- 1 1 / 1 5 元気アップと町教委との協議（運営委員会協議の内容検討）
- 1 1 / 2 4 元気アップと町教委との協議（指導者面談の内容検討）
- 1 1 / 2 5 伊勢市教委、受け皿団体、市議との意見交換
- 1 1 / 2 8 元気アップと町教委との協議（指導者面談の内容検討）
- 1 2 / 1 町教委内の協議
- 1 2 / 3 東海ブロッククラブミーティングに教委・元気アップが参加
- 1 2 / 7 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（バスケット・テニス）
- 1 2 / 8 伊勢市教委との意見交換
- 1 2 / 9 三重県主催受け皿団体向け web 説明会
- 1 2 / 1 0 第 2 回部活指導講習会（菟野中ハンド部＋陸上部＋バレー部＋元気アップ指導者）
- 1 2 / 1 5 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（柔道・剣道・ハンド）
- 1 2 / 1 9 元気アップクラブミーティングで進捗説明・協議
- 1 2 / 1 9 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（ソフト）
- 1 2 / 2 2 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（卓球・吹奏楽・陸上）
- 1 2 / 2 3 三重県教育委員会と元気アップと町教委と次年度事業等について協議
- 1 2 / 2 6 両校長と元気アップと町教委との協議
- 1 2 / 2 6 スポーツ・文化地域指導者と中学校顧問と町教委との協議（野球）
- 1 / 5 三重県教育委員会と元気アップと町教委と次年度事業等について協議
- 1 / 6 町教委内の協議
- 1 / 6 スポーツ・文化地域指導者へ電話にて部活の次年度体制について連絡・協議
- 1 / 1 8 第 8 回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 2 / 3 元気アップと町教委との協議（今後の検討スケジュール協議）
- 2 / 9 元気アップ理事会協議
- 2 / 1 5 第 9 回部活動のあり方意見交換会（zoom）
- 3 / 2 元気アップと町教委との協議（全部活への指導者配置協議）

・ 会議で挙げた課題や解決策

課題① 現在の状況から付加価値を付け、受益者負担を理解してもらう

解決策 地域クラブ活動としてのスポーツセミナーの実施

課題② 地域クラブ活動へ移行することにより受益者負担が必要になる可能性があることを周知する必要性

解決策 中学校長より通信を用いて保護者へ周知

課題③ 指導者の確保

解決策 各団体や地域の指導者と意見交換・会議

・ 各自治における今後の地域移行の取組方針

「休日の部活動の段階的な地域移行」に向け、R 4 年度までのモデル校事業から町内の全中学校（2 校）での取組へと発展、継続するとともに、費用負担の考え方や公式大会への参加や引率のあり方などについての国の検討状況も確認して、取組を進めていく。特に休日の地域クラブ活動には総合型地域スポーツクラブから専門性を有する指導者を派遣し、活動を充実させる。また、教員も参加する日を設定することで円滑な地域クラブ活動の実施を計画している。

平日の部活動に関しては、一部の部活動で専門性を有する部活動指導員を活用し、他府県の取組状況を把握して共有するなど、部活動ガイドラインに基づいて、生徒への効果的な指導と教員の負担軽減が図られるよう、取り組んでいきたいと考えている。

また、協議会を設置し、定期的な意見交換の場を設定するとともに、全中学校合同での地域クラブ活動についても議論していきたいと考えている。

・ 地域移行に関するシンポジウムや研修会、普及啓発活動等

～中学校部活動地域移行プレ事業～知って得するスポーツセミナーの実施（受益者負担）

年間 3 回実施

- ①PNF 理論を用いたウォーミングアップ
- ②BCT を用いたウォーミングアップ、ポストゴールデンエイジ期からのデクステリティへのアプローチ
- ③ポストゴールデンエイジ期からのテロメア・エフェクト

3. 実践研究校における取組について

3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全 2 中学校のうち、1 校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	3 部活
③ 種目	陸上、ハンドボール、バレーボール男子

※複数学校・競技で実践研究に取り組んでいる場合には、代表例を 2 校（各 1 種目）例示すること。

《主な取組例（1）》…菰野町立菰野中学校

① 運営主体	元気アップこものスポーツクラブ		
② 種目	陸上	④ 参加者数	1 2 2 人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	菰野中学校運動場
⑦ 指導者人数	1 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,600 円/時間
⑨ 指導者属性	元気アップこものスポーツクラブの指導者 1 名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（スポーツセミナー参加者：300 円/1 回）		

《主な取組例（2）》…菰野町立菰野中学校

① 運営主体	元気アップこものスポーツクラブ		
② 種目	ハンドボール	④ 参加者数	4 6 人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	菰野中学校体育館
⑦ 指導者人数	1 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,600 円/時間
⑨ 指導者属性	元気アップこものスポーツクラブの指導者 1 名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（スポーツセミナー参加者：300 円/1 回）		

《主な取組例（3）》…菰野町立菰野中学校

① 運営主体	元気アップこものスポーツクラブ		
② 種目	バレーボール男子	④ 参加者数	3 1 人
④ 活動日	土曜日	⑤ 活動場所	菰野中学校体育館
⑦ 指導者人数	1 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,600 円/時間
⑨ 指導者属性	元気アップこものスポーツクラブの指導者 1 名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	徴収あり（スポーツセミナー参加者：300 円/1 回）		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

- ・バレーにおいてとても大事なことの、瞬発力やストレッチなどを教えてもらってとても力になりました。また、自分たちのことを考えて教えてくれていることが伝わってとてもうれしかったです。
- ・トップレベルで指導されている方にバレーでとても大切なことを楽しめるように教えていただけてとても参考になりました。
- ・いつもと違う運動ができたので良かったです。家でできるものが多かったのでやってみたいです。バレーボールでも活用できるような動きがあったので、うまく活用できるようになりたいです。
- ・まず先生が優しくていいなと思いました。1 回目に参加した時からずっと家でやっていて、メニューが増えたなと思いました。
- ・とても大事なことを学んだので、今後も部活に活かしていこうと思いました。またあつたら参加したいと思いました。
- ・脳の足し算やうつ伏せになって起き上がる反射神経や、体の反射神経が良くなった気がします。部活動で活用したいと思います。
- ・楽しかった。仲がもっと深まった。じゃんけんのやつで足し算とか計算することがあってよかった。
- ・おしえてもらったことを部活動などで生かしていきたいと思いました。

- ・楽しい運動で体力も使ってよかったです。じゃんけんのやつでも頭も体も使っていい運動でした。楽しく運動できてよかったです。
- ・考え行動に変える動作は自分の苦手なところであり、気にしているところでもあるからよかった。たまに部活動でしているのと似ているのもあったし、活かせると思った。これからもちゃんとやる。
- ・楽しかった。今までやったことのないたくさんことができ、とても勉強になった。友達と普段できそうなことがたくさんあったので、部活動の休憩の時にやりたいと思った。頭をたくさん使えました。
- ・とても楽しかった。久しぶりに遊びみたいでしっかり練習ということをして本当に楽しかったです。頭で考えていても行動に移すことは大変難しいとわかりました。でも、継続することでできるようになると思うので、しっかり続けていきたいと思いました。みんなでつなげるやつは大変疲れました。でもつながったらうれしいし、団結力も生まれていいなと思いました。とても勉強になったし、これからも参加したいなと思いました。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

課題① 現在の状況から付加価値を付け、受益者負担を理解してもらう

解決策 地域クラブ活動としてのスポーツセミナーの実施

課題② 地域クラブ活動へ移行することにより受益者負担が必要になる可能性があることを周知する必要性

解決策 中学校長より通信を用いて保護者へ周知

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果

【成果】顧問へのアンケートより

(平日と休日の活動の連携)

- ・学校と地域指導者が連携を密にとり、練習や生徒の様子など共有し、指導の一貫性を持たせることができています。
- ・前の月に月別計画書を共有し、地域クラブ活動日と部活動日を明確にすることができた。
- ・地域クラブ活動日以外の地域の活動の情報や、学校部活動での子どものケガや気になる様子を共有することができた。
- ・平日も指導者がボランティアで参加してくれる日があり、連携をとることができた。

・電話連絡を週1回以上とっている。

(地域指導者の単独指導での不安の軽減)

- ・教員が役員等で大会会場に行く場合は引率を手助けするなど、不安を軽減できるようにした。
- ・子どもとの関係を良好にすることで、不安の軽減を図った。

(保護者や生徒へ活用概要の理解・周知)

- ・部活動参観の際、保護者に対して指導者の紹介を行った。
- ・休日の地域運動部活動について、書面にて保護者に説明した。
- ・子どもたちに口頭で紹介した。
- ・スポーツセミナーの開催により、地域移行に対するイメージを持ってもらうことができた。

(意識、技術向上)

- ・町内の両中学校を集めて合同練習会を開いた。
- ・用具店を呼んで、正しい用具の選び方の講習会を指導者が行った。
- ・顧問が専門ではないが、ボールの球出し等を子どもと一緒に活動しながらしてもらえるため、技術力向上につながっている。

(教員の負担軽減)

- ・顧問が複数配置されているため、最低でもどちらかの顧問が休むことができた。顧問の時間外労働時間の削減だけでなく、精神的な負担軽減にも繋がっている。
- ・精神的な軽減 (顧問に競技経験がないため、指導を助けてもらえたり、大会でも審判を変わってもらったりできることは非常に安心できる)

該当部活動顧問の軽減率

指導者の総活動時間ー顧問の総活動時間 = 軽減時間

陸上部 顧問 A (60 時間の軽減)
顧問 B (27 時間の軽減)
顧問 C (134 時間の軽減)

ハンドボール部 顧問 A (119 時間の軽減)
顧問 B (163 時間の軽減)
顧問 C (203 時間の軽減)

バレーボール男子 顧問 A (38 時間の軽減)
顧問 B (67 時間の軽減)
総軽減時間 811 時間

4.2 地域移行における今後の課題と対応

<p>【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】</p> <p>総合型地域スポーツクラブ内にコーディネーターを設置し、中学校の教員と地域指導者との連絡調整を行う。</p>	<p>【受け皿団体の確保方策】</p> <p>町内にある総合型スポーツクラブを大きな受け皿団体とし、指導者の登録、指導者派遣を行っていく。</p>
<p>【指導者の確保方策】</p> <p>総合型スポーツクラブ、地域の指導者、事務局の話し合いを通じて、指導者を確保していく。</p> <p>兼職兼業の考え方を教員へ周知していく。</p>	<p>【困窮世帯への支援方策】</p> <p>R5年度は国の委託事業や町費での負担を前提として、費用負担の在り方をアンケートや会議等で検討していく。</p>
<p>【地域移行の自走化に向けた方策】</p> <p>教員も地域クラブ活動に参加する回数を確保することで、指導者が完全地域移行となっても困らないようにする。指導や地域クラブ活動に付加価値をつけ、受益者負担を理解してもらうように取組を進めていく。</p>	<p>【地域特有の課題への対応策】</p> <p>人数の少ない地域クラブ活動においては、二校間での合同地域クラブ活動も視野に検討していく。</p>